

石川県立美術館だより

平成18年4月1日発行 第270号

特集 石川県の文化財

4月1日(土)~19日(水) 会期中無休



石川県文 虎図 岸駒筆

開館時間のお知らせ

4月2日(日)~4月19日(水) 日~木曜は午前9時30分から午後6時まで
金・土曜は午前9時30分から午後8時まで

目次

春の優品選、石川県の文化財.....2	平成17年度新収蔵品一覧.....5
今月のコレクション展示室 主な展示作品...3	講演会記録(鴨居玲さんの思い出).....6
企画展TOPIC(広重・北斎・歌麿 UKIYO絵展)...3	キッズ 体験講座参加者募集、企画展示室...7
平成17年度開催の展覧会(2).....4	美術館バスツアーのお知らせ、4月の行事案内...7
展覧会回顧(黒の迷宮 凝視の刻).....4	友の会からのお知らせ、次回の展覧会他.....8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

今月のコレクション展示室
(前田育徳会展示室)

特集

春の優品選

4月1日(土)~4月19日(水)
4月23日(日)~5月21日(日)

各地からの桜の便りとともに今年も新年度が始まります。「春の優品選」では、春の訪れを象徴する花や鳥を描く花鳥図と、漆芸作品を中心とする調度の優品による展示です。

春は華麗に咲き誇る花に心和ませる季節の始まりであるとともに、鳥のさえずりに象徴されるように躍動の季節の始まりでもあります。特に今年のように長く厳しかった冬の後の春の訪れを心から待ちわび、喜びをもつて迎えらるる方々も多いことと思われます。

さて美術工芸において花と鳥を描く花鳥画は、自然を室内において身近に共有できる最も一般的なテーマとして広く見られるもので、四季の変化を花鳥に託して日々の生活に彩を添えてくれるものとしてもてはやされるものであるほか、花の輝きや鳥の躍動美などの景観を描き留めて目を楽しませてくれるものでもあり、さらには文学や仏教・儒教思想などとも結びつき、寓意・庭訓・鑑戒を表す画題のモチーフとしても利用されてきました。以下で主な展示品を紹介いたします。

「四季花鳥図」は画聖とも称される雪舟の代表作の一つで、後々晩年の作と考えられています。本図は部分的ながらも彩色が施され当時の絵としては色味が豊かであり、また迫力ある輪郭線を伴う写実的な描写です。雪舟は、はじめ相国寺の禅僧でしたが、周防の大内家に請され山口に移り、雲谷庵を構えて画業に専念します。そして後年に明に留学し、江南から北京にかけ移動して中国の自然と芸術に触れながら参禅と画業の研鑽を積みました。雪舟は師の周文の様式と中国絵画を折衷させた独特の唐絵様式を打ち立て、我が国画壇に多大な足跡を残しました。

「鳥画帖」は各種の鳥を細部にわたって精緻に、また精彩な彩色で描いています。描かれる鳥は、鳩、鳥雉などの身近な鳥から、雁、鷺、鴨などの水鳥、また雉、梟などの類をそれぞれ生育する自然の景観のなかで樹木・草花を描き加えて表すもので、博物学的にも貴重である一方、鑑賞画としても楽しめる作品です。

今日、石川県に優れた文化財が数多く伝えられているのは、江戸時代の加賀藩主前田家による文化政策という歴史的背景があることは言うまでもありません。本館では美術工芸品を中心とした文化財の保存と活用を目的として収集を行い、また県内の社寺や個人の方々から文化財の寄託をうけております。毎年恒例の展示ですが、文化財保護法第四十八条にもつき、文化庁の勧告・承認出品の重要文化財をはじめ、石川県指定文化財を含む所蔵品・寄託品の中から、絵画・書・工芸の十五点を公開いたします。それでは作品の一部を紹介いたします。

仏果碧巖破関擊節上・下(一夜碧巖集) 大乘寺

中国に渡った道元禅師が、宝慶三年冬(一一二七)帰朝する直前に、天童の告により、一夜にして碧巖禄を書写したものと伝え、一夜碧巖の名が生じたといわれます。特に下冊八十一則以下は夜明け直前に白山権現が出現して助筆し、書写を完了したと伝えられ、曹洞禅における貴重な宝典です。

支那神刹図式(寺伝五山十刹圖) 大乘寺

大乘寺開山徹通義介が書写したものと伝えられます。中国の諸名刹(五山十刹)について詳しく図示した長巻で、盛況時における中国の神刹が彷彿と伺われる極めて貴重な資料です。

後深草天皇宸翰御消息

十七日に逆修(生前に仏事を修して死後の冥福を祈ること)を始めたことが書かれており、『華頂要略』には、正元元年(一一五九)九月十七日に薬師法(密教で薬師如来を本尊として厄難消除を祈願する法)が行われた記載があり、この時のことを記したものと想われます。天皇十七歳の筆跡と考えられます。

黒漆螺細鞍 白山比咩神社

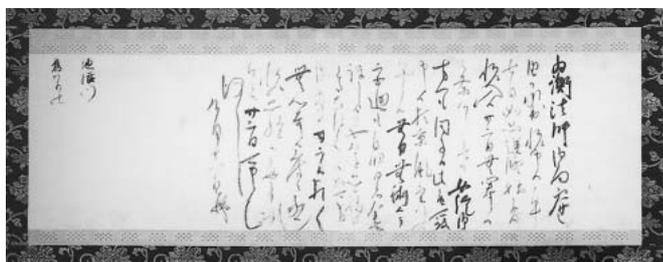
宝相華文のような楚々とした牡丹の花を、主として外側に散らし、内側にはよりシンプルな文様としてあしらわれています。黒漆地に螺細の繊細な線描風の表現は、素朴で古風な趣をもつ、鎌倉時代の作品です。林光明が先勝祈願のために献納したものと伝えられています。

今月のコレクション展示室
(第2展示室)

特集

石川県の文化財

4月1日(土)~4月19日(水)



後深草天皇宸翰御消息

今月のコレクション展示室 主な展示作品

4月1日(土)~4月19日(水)

● = 国宝 = 重要文化財 = 重要美術品
= 石川県指定文化財



● 色絵雉香炉 (右)
色絵雌雉香炉 (左)
野々村仁清

一般 350円	個	人	観覧料
大学生 280円			
高校生以下は 無料			
一般 280円	団体 (20名以上)		
大学生 220円			
高校生以下は 無料			

第3~6展示室は、4月2日(日)から4月19日(水)まで第62回現代美術展会場となっています。通常の展示は4月23日(日)からですが、次号でご案内いたします。

虎図 岸駒
黒漆螺鈿鞍 白山比咩神社蔵
後深草天皇宸翰御消息 大乗寺蔵
支那禪刹図式(寺伝五山十刹図) 大乗寺蔵
仏果碧巖破閑擊節上・下(一夜碧巖集) 大乗寺蔵

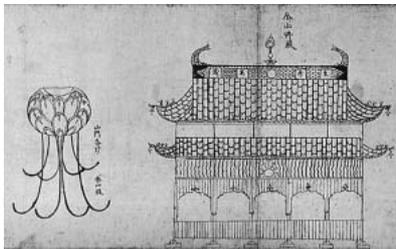
特集 石川県の文化財
色絵鳳凰図平鉢 古九谷
色絵布袋図平鉢 古九谷
青手樹木図平鉢 古九谷
青手桜花散文平鉢 古九谷

第1展示室
● 色絵雉香炉 野々村仁清
色絵雌雉香炉 野々村仁清

第2展示室
色絵鳳凰図平鉢 古九谷
色絵布袋図平鉢 古九谷
青手樹木図平鉢 古九谷
青手桜花散文平鉢 古九谷

前田育徳会展示室
特集 春の優品選
四季花鳥図 伝雪舟
鳥画帖 王若水
花鳥図 伝雪舟

黒塗布目引出絵替絵具筆筒 伝二代五十嵐道甫
黒塗村梨子地桜寿帯鳥文時絵鞍・鏡



支那禪刹図式
(寺伝五山十刹図)



黒漆螺鈿鞍



青手桜花散文平鉢
古九谷

企画展TOPIC 第2回 県美スペシャル 広重・北斎・歌麿 UKIYO 絵展 - 眠りから覚めた秘蔵作品初公開 -

前回の美術館だよりにて、「浮世絵とは、江戸時代の人々の楽しみに応えた摺物(印刷されたもの)だった」と述べましたが、現在の我々が、例えば憧れの芸能人のプロマイドや写真集に胸をときめかせるように、当時の人々にとっての憧れは歌舞伎役者であり、役者を描いた浮世絵が人気を集めたのです。市川團十郎といえば、現在も続く江戸歌舞伎界屈指の名跡。客席からの「よっ、成田屋！」の掛け声で盛り上がる舞台の様は、今も昔も変わりません。中でも江戸歌舞伎全盛の安永天明期(1772~89)に活躍したのが五代目團十郎。荒事(勇壮活発な人物の演技)だけでなく、女方(女性役)も得意とした人気役者でした。さて、その五代目。芸以外でも世間を騒がせた人物で、二代目市川八百蔵の末亡人お砂との密通が報じられた瓦版は、飛ぶように売れたといひます。なんと、その時妻のおかめとは既に別居中。加えて、この噂を吹聴した四代目松本幸四郎を、

舞台上で罵倒したというから、さあ大変。...今風に言えば、連日ワイドショーを賑わす格好のネタだったわけです。「そんな五代目とは、どんないい男だったのかしら」と、そんな話を聞けば、現在の我々でも気になるもの。この勝川春英の浮世絵は、その五代目を描いたものですが、はっきりとした眉と鼻を持ちながらも、目尻の下がった、なかなか憎めない愛嬌ある顔をした男だったようです。浮世絵にある役者絵は、どちらかというイラスト的で、一見、どれも同じように見えますが、色々見比べてみると、なるほど役者一人一人の個性をよくつかんでおり、当時の人々がそれに本人の姿を重ね、競って買い求めた理由もわかるような気がします。4月下旬から始まる展覧会では、前回述べた名所・風景を題材にした浮世絵だけでなく、こうした役者絵も紹介します。同じく、江戸時代の人気者だったお相撲さんや美人を描いた浮世絵も展示しますので、楽しんでご覧ください。(村上尚子 学芸主任)

「広重・北斎・歌麿 UKIYO 絵展」の会期は、平成18年4月23日(日)~5月21日(日)です。



五代目市川團十郎 春英

展覧会回顧

平成17年度開催の展覧会(2)

後期に1階企画展示室で開催された当館主催の特別展は2回でした。

「没後20年 鴨居 玲展 - 私のお話を聞いてくれ -」は、当館、神戸市立小磯記念美術館、ひろしま美術館、長崎県美術館の4会場で開催するもので、当館が最初の会場として開催したものです。鴨居 玲展は、鴨居氏の没後10年(平成7年)を最初に、15年(同12年)、20年(今回)とその後5年ごとに開催しております。といたしますのも、当館の絵画部門の作家で、コレクション展示室に作品が展示されていますが、展覧会の開催予定はありませんかという問い合わせが一番多いのが鴨居氏です。多くのファンの皆様のご要望もあり今回の開催となったものです。今回も初期から晩年までの各時期の代表作を中心に110余点の油彩画、水彩画、素描で構成いたしました。特に初期の作品については未発表の作品を含んでおり、鴨居芸術の全容をご覧いただけたことと思います。前回はいらっしゃいましたが、終日、いや2日間にわたり熱心に鑑賞されるお客さんも何人もおいでました。また、開催会場が当館から西日本の会場ばかりで、関東での開催会場がないということで、なぜ関東で開催しないのかという苦情の電話を多数いただきました。関東地域の皆様から、図録を送って欲しいという申込みは現在も続いております。

「黒の迷宮 - 凝視の刻 - 木下晋・小林敬生・日和崎尊夫」は、当館では最初の版画の展覧会といえるもので、(小林・日和崎両氏は木口木版画、木下氏は鉛筆画)3人の作家による黒線が織りなす細密な凝視の世界をご覧いただきました。黒を用いて、人が視ることができる限りを尽くして描き込んだ世界、それぞれ、気が遠くなるような制作過程のすえ表現される世界は、黒に色を感じさせ、見るものに、驚嘆、畏怖の念などを想起させ、特別な精神世界へと誘い込む作

品群でした。会場では、いろいろな感想から出た言葉と思いますが、『ウーすごい』という言葉が多く聞かれました。

2階コレクション展示室で開催した特別陳列や特集は32回を数えました。

「- 作陶55年 - 北出不二雄の世界」は、平成10年に開催しました「- 九谷色絵の魅力 - 北出塔次郎・不二雄の世界」以来の北出氏の特別陳列でした。昨年度開催の「古九谷へのまなざし - 昭和・平成の名工たち -」で紹介した九谷の作家の古九谷に対する熱いまなざしを、北出氏が選定した当館所蔵の古九谷作品とともに展示し、その美意識、制作態度、作品世界を紹介することができたと思います。

「吉田富士夫 - 手品師の息づかい -」は、本県における二紀会の重鎮として活躍された吉田氏の初期の墨彩画から晩年の文楽をテーマとする油絵までを展示し、その創作の軌跡をご覧いただきました。

「朝鮮のやきもの」は、日韓友情年2005に協賛して開催したものでした。高麗青磁と象嵌青磁をはじめとする高麗のやきものと粉青と染付などの李朝のやきものを展示しました。ギャラリートークでも紹介しましたが、朝鮮のやきものの人気を再認識しました。

「夏休み親子で楽しむ美術

館~きになるかたち~」は、キッズの体験講座の日はもちろん、夏休み中会場で楽しそうに語り合う親子の姿が見られました。また、一般の方からもおもしろい、わかりやすいという感想をいただきました。

前田育徳会展示室では、「尊經閣文庫名品展」「加賀藩の美術工芸」「茶道美術名品展」において、それぞれ前田育徳会から優品を借用展示し、加賀藩において収集育成された美術工芸の精華を鑑賞いただきました。

(南 俊英 学芸第一課長)



黒の迷宮 凝視の刻

木下 晋・小林敬生・日和崎尊夫



黒という色が持つイメージは人それぞれであり、それ故に芸術家にとっては幅広い表現が可能となる特殊な色だと思えます。本展は、その黒を用いて、3人の作家が視ることの限りを尽くし、描き込んだ凝視の世界をご覧いただくというものでした。

木下晋は、モノトーンであっても色を感じることが出来るという考えから、従来のデッサンとは違った鉛筆画を制作しています。9H~9Bまでの20種類の鉛筆を駆使し、それぞれの鉛筆が持つトーンの違いを絵の具のように使い分け、見事に人物の生き様を描いています。描かれた老人の顔に深く刻まれた皺を執拗に描き、リアルに表現している画面からは、恐ろしいほどの迫力を感じます。木下がペンシルワークと呼ぶ制作を理解していただく20種類の鉛筆のグラデーションを資料として展示したほか、手帳(虫眼鏡で見ないと読めそうな文字でびっしり書かれている)を展示しました。

木口木版のパイオニアとして知られる日和崎尊夫は、木口と語らい、まるで無限の闇の中に光りを灯すように、そ

の年輪に詩的な世界を刻みつけました。黒い木口の面をビュランで1本1本彫り続けた白線が美しい版木を展示し、日和崎の繊細な制作の様子を理解して頂けたかと思えます。木口木版が本来、本の挿絵として発達した技法であったことも、詩画集を展示したことでおわかりいただけたかと思えます。

小林敬生は、日和崎尊夫のKALPAシリーズに感動し、木口木版の魅力にとりつかれました。自然への憧憬、文明社会への警鐘が作品のテーマにあります。小林は、本来の木口の大きさに囚われずに、【鏡貼りかがみび】という独自の技法を編み出し、版木を何枚もつないで雁皮紙に刷り、大画面を構築しています。この開拓精神はこれからの制作にも反映され、私たちをはっとさせる作品が生まれてくるのではないのでしょうか。

この展覧会では、下絵や版木、雁皮紙やビュランなどの道具等を展示し、作家の制作過程を見ていただくことで、作品への理解が一層深まったのではないかと思います。アンケートにも、資料が展示されていて良かったとの感想を多くいただきましたし、学生の姿もいつもより多く見られ、現代作家の作品もこれから企画して欲しいというご意見もいただきました。色味のない地味な展覧会ではありましたが、観覧下さった方々からお褒めの言葉や励ましのお言葉をいただきましたこと、大変感謝しております。ありがとうございました。(吉村尚子 学芸主任)

平成17年度 新収蔵品一覧

平成17年度の新収蔵品は、寄贈16点、購入8点、計24点となりました。ご寄贈を賜りました各位に対し、改めて感謝の意を表します。また今後とも皆様のより一層のご協力をお願いいたします。

平成18年3月31日現在の収蔵品総数は2,884点です。

陶磁

翡翠図鉢 南 繁正作
 青釉銀彩角皿 米山 央作
 九谷色絵妖精舞大鉢 長谷川壺人作

漆工

沈黒緑陰箱「能登有情」 山岸一男作

染織

友禅訪問着「さくら・さくら」 中正享子作
 友禅訪問着「鏡花」 松井眞夫作

刀剣

短刀 銘宇多國久
 (附) 床塗唐草文合口拵 宇多國久作 苅谷みね氏寄附
 太刀 銘加賀國松任住 隅谷正峯作之
 於傘笠亭四十一歳 昭和三十六年八月日

小刀 銘加賀國住正峯作之 隅谷正峯作 牛村繁男氏寄附

截金

木彫截金比翼鳥の合子 西出大三作

日本画

早春 川辺忠孝筆 川辺忠孝氏寄附
 刻々 川辺忠孝筆 川辺忠孝氏寄附

油彩画

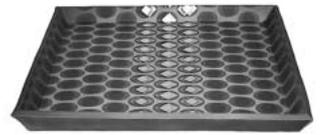
雪と鳥 於能登輪島 鴨居 玲筆 櫻木昌靖氏寄附
 赤い老人 鴨居 玲筆 富山栄美子氏寄附
 蜘蛛の糸 鴨居 玲筆 富山栄美子氏寄附

水彩・版画等

舞妓十二題 宮本三郎作
 大原女 鴨居 玲筆 富山栄美子氏寄附
 ヴギウギ 吉田富士夫筆 吉田芳子氏寄附
 スタチオ風景 吉田富士夫筆 吉田芳子氏寄附
 陶工房 吉田富士夫筆 吉田芳子氏寄附
 静物21 吉田富士夫筆 吉田芳子氏寄附
 ヒタナ 吉田富士夫筆 吉田芳子氏寄附
 野の道化 吉田富士夫筆 吉田芳子氏寄附
 蘇生の刻 群舞 99 3A 小林敬生作 小林敬生氏寄附



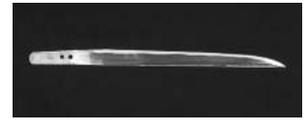
翡翠図鉢 南 繁正



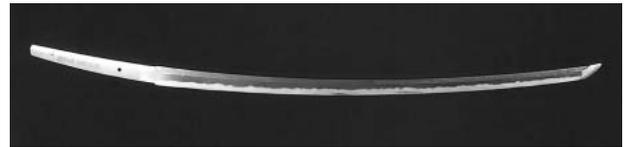
青釉銀彩角皿 米山 央



九谷色絵妖精舞大鉢
長谷川壺人



短刀 宇多國久



太刀 隅谷正峯



友禅訪問着「さくら・さくら」
中正享子



友禅訪問着「鏡花」 松井眞夫



沈黒緑陰箱「能登有情」
山岸一男



木彫截金比翼鳥の合子
西出大三



雪と鳥 於能登輪島 鴨居 玲



赤い老人 鴨居 玲



舞妓十二題 宮本三郎



野の道化 吉田富士夫

講演会記録

鴨居 玲さんの思い出

講師：長谷川智恵子氏（日動画廊副社長）



私は仕事柄、画家の方とのお付き合いはとて多いのですが、その中でも鴨居玲先生は特別に心に残った画家でした。20年前の9月7日、私はソウルで、朝の8時頃に先生が亡く

なられたという報せを夫（日動画廊社長）から受けました。夫は前の晩12時頃に、銀座のバーから神戸の鴨居先生に、養毛剤の使い方について、電話で笑いながら話していたというのです。それ以前にも自殺未遂まがいのことを度々なさっていたので、本当は死ぬつもりはなかったと思うのです。常々「死ぬときは絹のタキシードを着て死ぬんだ」とおっしゃってました。まさかジーンズで旅立つとはご本人思っていたらっしゃらなかったでしょう。

先生とは1968年に銀座日動画廊で展覧会を開いた際に初めてお目にかかりました。すごく素敵でダンディーな方でした。それからパリやスペインに行かれ、お会いする機会が増えていきました。スペインではマドリッドから離れた“小さな村”に住んでらっしゃいました。村の話をよくなさり、「お節な爺さん婆さんが大勢いてうるさいんだ」などおっしゃっていたので、私は小さな鄙びた村を想像していたのですが、亡くなった後に、瀧梯三さんが先生の伝記を書くために現地に行かれ、「結構な都会だったよ」とおっしゃったのです。先生の場合はすべてがドラマチックに話が変わることが多くて、それで周りの人も楽しむんですね。

ちょうどその頃、パリに日動画廊の支店を開設しまして、先生の個展を開くことになりました。展覧会と画廊の宣伝とを兼ねてテレビに出たのですが、通訳は着物を着た私です。まだフランス語があまり話せないので、質問をあらかじめ聞き、先生の答えをフランス語に訳して、それを全部丸暗記するというすごい冒険をしました。でも、最後の方で違う質問が出たんです。先生も難解な話をなさり、「先生もっと簡単に話して下さい」と、冷や汗もの内容でしたが、スタジオの強い光りを作品に当てると、先生の黒い絵の下地の赤がぐっと出てきて、とても綺麗に映ったんです。それを見たアメリカの画商が、ぜひ展覧会を開きたいということで、ニューヨーク展へと発展していきました。

パリ時代では、先生が「社交パーティーに連れて行ってよ」とおっしゃるので、何度か出かけたことがあります。好奇心が強く、いろいろなところを見てみたいという

気持ちがあったのだと思うんです。でも語学の方は熱心ではなく、全然フランス語はお話にならないんです。そして、車はアメリカのムスタングという大きなスポーツカーをお持ちでしたが、先生運転が下手で、いつも周りにははらはらするんです。みんな止めたらというんですが、パリでムスタングに乗っている自分というものが好きらしいんですね。ドラマチックに格好をつけたいんです。

ニューヨークの展覧会では、画商さん開口一番「男性をお好きじゃないですか」と聞きます。アメリカの美術界にはホモセクシャルな方達が多いので、そうだとすぐにスターだというわけです。先生怖じ気づいてしまって、恐ろしいから私の傍を離れないんです。もしも先生がホモだったら国際的な大画家に躍り出る舞台もあったのにと、少し残念な思いもいたしました。展覧会は大成功で、もっと続けてニューヨークでやればよかったと思うんですけど、その頃から日本に戻りたいという気持ちを先生は抱かれていました。

神戸に住居を構えられても、好きな仲間の人達と飲んだり騒いだり歌わせたりと大騒ぎをするのがお好きでした。お家では靴のままです。いつもブーツを履いていて、私は裸足の先生を見たことがありませんでした。先生曰く「僕は足の長さが違うので、ブーツの中で調整しているんだ」と。その真偽のほどは分かりませんが、必ずブーツでウエスタンスタイルでした。お酒がとて強くて乱れるということがありませんでしたが、後で聞くと、みんなにサービスして騒いだ後は、寂寥感に襲われ、淋しくなってひどく落ち込んでいたのだそうです。

お父様が新聞記者でしたから、文学に造詣が深く、作品の題名にもそれは反映していました。内面を描く絵描きでありたいという思いが強く、パリ時代に主人が「首吊りだとかお婆さんだとかではなくて、若い人を描いて下さいよ」と申しましたら、先生「そのうち描くよ」とおっしゃったんですけど、何年経っても女性が出てこないんです。先生は宮本三郎さんのお弟子さんでいらっしゃいます。「僕がきれいに女性を描いたら宮本先生の亜流になってしまう。それは僕ではない。僕は僕だけしか描けない女性、裸婦を描きたい」ということなのでしょう。ずいぶん悩まれて1年くらい絵ができないときがありました。やっとできたのが「石の花」でした。

先生が亡くなった後、5年10年15年と節目ごとに展覧会が開かれました。こういう作家はめったにないですし、開く度にファンが増えていきます。そして生前以上に評価が高くなっています。精神性というものが、いかに美術にとって必要なのかということも、鴨居芸術を見ると思えます。

亡くなられて20年経つんですけども、私の心の中には、今も先生があんなダンディーな姿で迎えて下さるのではないかと、そんな気持ちがいたします。

（「没後20年 鴨居玲展」にちなんで、11月13日に当館ホールで行なわれた講演内容を、当館の責任で要約したものです。）

キッズ 体験講座 参加者募集

キッズ プログラム 体験講座

企画展示室「UKIYO絵展」にあわせた、小学生のためのワークショップ

版画に挑戦！（小学校5・6年生）

4月30日(日)

対象：小学校5・6年生

* 彫刻刀が使用でき、持参できる方

内容：木版画多版多色刷りをします

時間：午前10時～午後3時30分

彫刻刀のほかに、お昼をはさみますので、

お弁当・水筒を持参

場所：講義室

定員：20人

参加費：材料費（600円程度）

申し込み方法：往復はがき

往信はがき裏面に参加希望の子供・保護者の氏名、お子さんの学年、連絡先（住所、電話番号）を記入
返信はがき表面に返信先（住所・氏名）を記入
返信はがき裏面にはこちらで印刷をしますので、何も書かないでください

応募者多数の場合は抽選（返信はがきで通知します）

応募締め切り 4月15日(土) 消印有効

企画展示室

第62回現代美術展

4月2日(日)～19日(水)(第3～9展示室)

部門 彫刻 工芸 書

入場料 一般 1,000円(800円)

大高生 600円(400円)

中小生 500円(300円)

()は団体料金

当館友の会会員は、会員証提示により団体料金になります。

連絡先 金沢市香林坊2 5 1

北國新聞社事業局内

財団法人石川県美術文化協会

「第62回現代美術展」事務局

☎ 076 260 3581

《日本画、洋画、写真》は、金沢21世紀美術館で展示いたします。

第3回美術館バスツアーのお知らせ

2004年から始めました美術館バスツアーですが、3回目は前田家ゆかりの土地、高岡市の美術館・文化財等を見学するコースを計画しております。

現在、下記の予定で準備を進めております。見学コースや日程等の詳細は、来月号に掲載しますので、しばらくお待ちください。

日 程 6月11日(日)

集合・解散 金沢駅西口バスターミナル

見学先 富山県高岡市

見学地 瑞龍寺、高岡市美術館
高岡万葉歴史館他

募集定員 45人

申込方法 往復葉書

(次号で書式のご案内をします。)

4月の行事案内

《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います(キッズ 体験講座を除く)》

月 日	行 事	内 容	会 場
4/2(日)	月 例 映 画 会	日本の美術工芸 その手わざと美(31分)	ホール
4/23(日)	講 演 会	演題「浮世絵の魅力 久世コレクションを中心に」 講師：小澤 弘氏(江戸東京博物館 都市歴史研究室長・教授)	ホール
4/29(土)	美 術 講 座	ジャポニズムと近代日本美術 (寺川和子 学芸主任)	講義室
4/30(日)	キッズ 体験講座	版画に挑戦！(小学校5・6年生対象。午前10時～午後3時30分) 事前に普及課までお申し込みください。	講義室

4月の全館休館日は20日(木)～22日(土)です。



東海道五十三次之内 庄野 歌川広重



江戸名所百景 隅田川水神の森真崎
歌川広重



江戸の花娘浄瑠璃 喜多川歌麿



富嶽三十六景 武州千住 葛飾北斎



みかけ八こ八あがとんだいい人だ
歌川国芳



「絵本舞台扇」尾上菊五郎
勝川春章

本文は3ページです。

友の会からのお知らせ

このたびは友の会へご入会くださりましてありがとうございます。会員の皆様のお手許にはこの『美術館だより』を毎月お送りいたしますが、送付事項に誤りまたは今後変更などがございましたら、お手数でもご一報くださいますようお願いいたします。会員証提示による入館料の割引は、石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館でも受けることができます。(いずれも各館主催展覧会に限ります。) また、会員本人に限り、当館コレクション展へは年間通して無料で入場できます。お出かけの際にはどうぞご利用ください。

920-0963 金沢市出羽町2-1	会員番号 会員証裏面左上の番号と同じ ものです。
石川県美様 2006	郵便番号バーコード

次回の展覧会

特集 春の優品選(後期) (前田育徳会展示室)
 特集 屏風絵の美(前期) (第2展示室)
 特集 久世コレクションの近代版画(第3展示室)
 当館企画展
 県美スペシャル 広重・北斎・歌麿 UKIYO絵展
 眠りから覚めた秘蔵作品初公開
 (第7~9展示室)
 4月23日(日)~5月21日(日)

休館日：4月20日(木)~22日(土)

石川県立美術館だより 第270号

2006年4月1日発行

〒920 0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>